

第8回震災予防講演会（通算37回）

過去の大震災の復興から学ぶ地震防災

主催 公益社団法人日本地震工学会

後援：日本地震学会(予定)、土木学会、日本建築学会(予定)、地盤工学会、日本機械学会、
日本火山学会、歴史地震研究会

日本では、これまでに地震によって大きな被害を受けてきた。代表的な大震災として、1923年に発生した火災による被害が大きかった関東大震災、1995年に発生した揺れによる被害が大きかった阪神淡路大震災、そして2011年に発生した津波による被害が大きかった東日本大震災がある。東日本大震災の復興は道半ばであるが、関東大震災と阪神淡路大震災では、多くの支援と住民の努力によって復興を成し遂げている。本講演会では、過去に発生した3つの大震災に対して、復興を成し遂げた要因および復興できない要因を紹介して頂く。これらの要因を知ることによって、今後必ず発生する相模トラフの地震や南海トラフの地震などに対する減災および復興のヒントを探る。

日時：2018年2月9日（金）13:00～16:30

場所：パシフィコ横浜・アネックスホール（横浜市西区みなとみらい1-1-1）

プログラム：13:00～16:30

司会 宮腰淳一（震災予防講演会WG主査・清水建設株式会社）

13:00-13:05 開会挨拶 福和伸夫

（日本地震工学会会長・名古屋大学減災連携研究センター 教授）

13:05-14:05 関東大震災：復興百年誌

武村雅之（名古屋大学減災連携研究センター 教授）

14:05-15:05 東日本大震災の復興過程と現状

村尾 修（東北大学災害科学国際研究所 教授）

15:05-15:15 休 憩

15:15-16:15 阪神・淡路大震災と被災者支援一命をつなぐためにー

阪本真由美（兵庫県立大学減災復興政策研究科 准教授）

16:15-16:30 質疑応答